

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

物理

総括

試験時間	2科目150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

昨年と同程度の難易度，分量の出題である．基本的な設問が中心で，試験時間を考えれば適切な難易度，適切な分量である．基本的な設問が中心とは言ったが，物理が身についてないと解けないだろう設問も含まれており，点数をとるためにはしっかりした物理の学力が必要である．

<特記事項・トピックス>

特になし．

<合格への学習対策>

合格のための学習対策として，なにより肝心なのは，物理の考え方を身につけて，基本的な問題を正しく解く力を付けること．それを試験会場でも発揮できるようにすること．物理の問題を解く力だけでなく，文章を正確に読む力をつけること，自分の考えを正しく他人に伝える力をつけること．そのためには，物理の基本的な考え方をよく理解するようにする，物事を物理的に考えながら問題を解く，丹念に粘り強く計算する，グラフや図を描いて物理現象に対する理解を深めるようにする，そういう練習を丁寧に積み重ねるのがよい．

昨年までの数年は，問題の分量が多く難易度も高い出題が続いていたが，昨年度は大きく傾向が変わり，試験時間内に充分に取り組める分量，難易度の出題になった．今年度もそれが続いた．しかし，入学試験においては，問題の難易度や分量が変わるのが常であって，出題傾向にとらわれることなく学習することが大事である．どのような出題であっても，基本的な内容の設問を正しく解けることが最も大事であることに変わらない．東大の問題は，基本的な内容の設問と言っても，設定や設問に工夫がしてあり一筋縄では解答できない．問題を解いていくなかで，基礎事項の理解，注意深く考察する力，思考力，処理能力など，総合的な学力を測ることができるような問題になっている．そういう力を日々の学習の中で育てていくように心がけること．

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問	記述	物理	力学：剛体に働く力のつりあい．摩擦．円運動．	剛体の運動方程式，あるいは剛体とともに動く座標系で見て剛体に働く力のつりあいの式，加えて剛体に働く力のモーメントのつりあいより，垂直抗力，摩擦力の大きさ，剛体の傾きを求めればよい．加速度の最大値は剛体が滑らない条件から求めることができる．I，II は難しいところはない．III (2) できちんと図を描いて，静止摩擦力と垂直抗力の大きさを計算できればすんなりと最後の設問まで答えることができる．	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

第2問	記述	物理	電磁気：一様一定磁場中で回転する導体棒.	電磁誘導に関する基本的な問題である. この問題も I～III は難しいところはない. この辺りを間違えてはいけない. IV について. 剛体棒がある角速度で回転しているとき, 剛体棒に質量があるので剛体棒は運動エネルギーをもつが, 角速度が変化する剛体棒の回転運動の扱いは高校物理の範囲を超えるため, この部分をどう考えるか指定があって, それに沿って考えるようになっている. その誘導にしたがって考えればよい. IV はコンデンサー1と2の電荷の和が保存すること, これらの両端の電位差が等しくなることから, コンデンサー1の電荷を求めればよい. 抵抗を含む回路なのでコンデンサーの静電エネルギーの和は保存しない.	標準
第3問	記述	物理	光：レンズの公式. 組み合わせレンズ. 光の干渉.	I はレンズの公式, 像の倍率など, レンズに関する基本的な設問なので正しく解答できてないといけない. II (1) では $ x /d$, $ y /d$ の一次の微小量の項は残し, $(x^2 + y^2)/d^2$ のような二次の微小量の項は無視する近似をしないと計算できない. 似たような計算をしたことがないと難しいかもしれない. II (1) の計算ができてしまえば, (2)～(4) はその結果を用いて答えるだけである.	標準

「問題レベル」は, 本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に, 問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています. 昨年対比ではありませんので, 総括の難易度(昨年比)とは連動しません.